

会議録

会議の名称	第4回子ども子育て審議会計画専門部会
開催日時	令和6年8月16日（金曜日）午前9時30分から11時45分まで
開催場所	田無庁舎502会議室、オンライン
出席者	委員：小野部会長、小林委員、齋藤委員、島崎委員、菅野委員、中村委員、武田委員、篠原委員、平野委員 事務局：遠藤子育て支援部長、菱川子育て支援課長、齋藤幼児教育・保育課長、中村幼児教育・保育課主幹、笹本幼児教育・保育課主幹、河野児童青少年課長、宮崎子ども家庭支援センター長、栗林子育て支援課長補佐、倉本子育て支援課副主幹、岡田子ども家庭支援センター長補佐、本谷子育て支援課調整係長、越川子育て支援課調整係主任、須藤子育て支援課調整係主事
議題	1 議題 (1) 子どものワークショップについて (2) 若者調査の結果について (3) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて (4) 基本理念・基本方針・施策体系について (5) 計画の名称について 2 その他
会議資料の名称	資料1 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の見込みについて 資料2 基本理念・基本方針・施策体系（案） 資料3 計画名称案
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 審議 (1) 子どもワークショップについて ○小野部会長 7月14日、8月3日、4日に武蔵野大学において、「西東京市子ども会議」が無事に開催された。 小学4年生から高校2年生までの30人が参加し、武蔵野大学の学生と一緒に西東京市子ども条例や西東京市子育て・子育てワイワイプランを学んだり、居場所についてグループで話し合いをして、最終日には、どんな場所があったらいいかを発表をした。 詳細については、事務局から説明願う。 ○事務局 小学生のグループでの「ほっとできる場所」は、静かで落ち着ける環境や、清潔で安心できる場所、友だちなど知っている人がいる場所等が挙がった。具体的には、家や学童、学校、児童センター、図書館、公園などであり、知っている人がいることや安心感、楽しいイベントがある点が共通していた。また、自然環境や涼しさなどの感覚的要素も重要視されていた。	

「ほっとできない場所」は、騒音や臭い、汚れた環境が主な要因として共通しており、うるさい場所や緊張感がある場所、暗くて怖い場所、雑草が生えた場所、人が多くて騒がしい場所などが挙げられた。これらの場所では、音が耳に響いて不快になる、知らない人が多くて不安を感じる、治安が悪いと感じることなどが理由として挙げられた。

「宣言（発表）」では、子どもが安心して楽しく遊べる場所を求める声が多く見られ、無料または安価で利用できるスポーツセンターや映画館、子ども専用の遊び場、サッカーなどのボール遊びもできる広い公園、e スポーツ大会などが挙げられた。また、実現方法として、募金活動や広い場所の確保、材料の収集など提案があった。さらに、施設の安全性や快適性の向上についても意識されており、段差の解消や虫対策、休憩場所の設置といった具体的な改善策が求められた。

中高生グループの「ほっとできる場所」は、落ち着ける環境で自分らしく過ごせる場所が好まれる傾向が見られ、家の縁側や図書館の自習室、児童センター、西原自然公園などが挙げられた。知っている人がいる、自分に馴染みがある、自分の好きなことができる、広々として落ち着くといった共通点があった。

「ほっとできない場所」は、狭くて暗い場所や、ゆっくりできない環境が挙げられ、通学路の十字路、公園の机と椅子、人が多くてがやがやしている所、学校や電車、公園、教室などであった。これらの場所は、交通量が多くて危険を感じることや、しっかり整備されていない、落ち着いて過ごせないことなどが理由に挙がっていた。

また、古民家カフェを作りたい、子どもが自らの発想で主体的につくる西東京ドリームプレイスを作りたいなどのアイディアが出された。

複数の子どもから、自分たちも夢の実現に貢献したい、まちづくりに関わりたいという感想があった。見学者、関係者のアンケートからは、子どもが自分の言葉で話せていたのは印象的だったとの声があった。

○小野部会長

子ども会議の大学生への研修に参加したり、3日間ご参加いただいた小林委員からコメントをいただきたい。

○小林委員

子どもが自分の意見をしっかり表明していたことが素晴らしかった。

D a y 1で場の雰囲気慣れる時間を設けたのが良かった。また、子どもの意見の中でも公園の整備に関することが印象に残った。子どもの意見を副市長のいる場で発表したことは大きな意味があると感じた。

○平野委員

D a y 3を見学したが、D a y 2で子どもが意見を話すことができ、良い発表につながったのだと思った。

学校、教室、公園が居心地が良いと思っている子どもと、同じ場所を居心地が良くないと感じている両方の子どもがいることが分かった。その両方の子どもの意見をもっと丁寧に聞きたいと思った。全ての子どもが同じことを思っているわけではないので、一人ひとりに向き合っていきたい。

子どもたちがしっかり意見表明できることに意義を感じた。また、実現するために大人と一緒にできることをやりたいという発言があり、参加できる場所を大人が作るこ

ができれば良いと思った。

○小野部会長

居心地が良い場所と良くない場所の感じ方が様々で、子どもの多様性を感じた。また、実現するのを手伝いたいという子どもが多かったので、報告書ではもっと紹介できると良い。

○篠原委員

Day 3を見学して、意見を表明する場は良いと思った。また、多世代だけでなく、普段触れ合うことのない違う学校の同じ世代の子どもと交流ができたことも、子どもにとって良かったのだということが印象に残った。生徒会同士の連携する場があると良いという意見も出ていたので、そのような声も報告書に残せると良い。

子どものやりたい気持ちにどう応えるのか、またやりたいという気持ちだけでは実現できない大きなテーマもあると思う。大人ができることと子ども自身の力でできることがあるが、何らかの形で実現できると良いと思った。

見学者として、子どもの家族が真剣に聞いていた。子どもを取り巻く家族、友だちを含む輪作りが大事だと思った。

全体の雰囲気が高く、大学生を含めて場づくりが良かったのだと思った。

○小野部会長

子ども会議は、言って終わりではなく、子どもと大人の共同作業だと思う。保護者を含めて大人たちに聞いてもらえたというのは良かったと思う。

大学生は回を重ねるごとにレベルアップをしていき、良い会議になったと思う。

○平野委員

子どもの意見の中で、自分だけ良ければ良いというのではなく、こうすれば、赤ちゃんにもお年寄りにも良いという、みんなにとっても良いという視点が良かった。

○小野部会長

模造紙には書き込んでいない意見にも良い意見があった。市内の図書館がほっとするという意見が印象に残っている。学校の図書館は放課後に開いていない、どんな公園がほっとするのかというときににぎわっている公園などを紹介したいと思った。

○平野委員

模造紙の内容も報告書に反映できればいいと思った。

○事務局

報告書に追加する。

○篠原委員

西東京市子ども条例と西東京市子育て・子育てワイワイプランを説明するのが難しいのではないかという意見が以前あったので、当日どのような説明をしたのか資料を拝見したい。

○事務局

共有させていただく。

○小野部会長

西東京市子ども条例は副教材があるので、説明しやすかったと思うが、ワイワイプランを説明するのは、難しかったと思う。

ワイワイプランをどのように使われていくかという点で説明できたと思う。

○島崎委員

子どもの意見の古民家カフェに興味を持った。提案を展開して、緊急ショートステイを古民家カフェと連携して実施できるのではないかと考えた。

また、大学で実施したことも子どもにとって刺激になったと思う。今後、生徒会の意見交換が活発にできれば、子どもが市議会に参加して意見を発表することにも展開できれば良いと感じた。

○小野部会長

今回は初めての開催であったので、どのようにフォローアップしていくかが大事だと思う。今後に向けても検討できればと思う。

○事務局

今回の子ども会議は、ワイワイプランに子どもの意見を反映するために開催したが、好評いただいているので、今後について検討できればと思う。

○小野部会長

継続的な取組にしていきたいと思う。

その他に何かご意見等があれば、8月20日までに事務局まで送付いただければと思う。

(2)若者調査の結果について

○事務局

若者調査の回収率は11%だったが、他の自治体と同程度である。

問6 終業後や休日に過ごしたい場所として、「商業施設やカフェ、ファミリーレストラン、カラオケなど」という回答が一番多かった。友人や仲間とおしゃべりができる場所や一人で過ごせる場所、スポーツ関連の意見も出た。

問8-1 まちづくり活動への参加について、「どれにも参加していない」の回答が一番多かった。

問13 不安や悩みについて、収入や生活費、奨学金の返済などお金のことに不安を感じる人が多かった。漠然とした不安を感じている人も多くいる状況である。

問14 の相談したい人や場所については、「匿名で相談できる」を選択した人が一番多く、同じ悩みを持っていたことがある人への相談や曜日・時間帯を気にしないで相談できることも多かった。

問15 の育成支援機関については、子ども相談室ほっとルームやスキップ教室などを

知らない人が過半数いる。

問 16-1 市の制度や取組に自分の考えを伝えることについては、伝えられていないと思う人が多い。理由として、意見を伝える方法が分からないとの回答が最も多かった。子ども会議のように、意見表明の場を考える必要があると考える。

問 17 意見を伝える手段について、LINEやSNSなどのオンラインで伝えるやアンケートで答えるとの回答が多かった。

問 18 西東京市に必要な取組について、お金のことを心配することなく学べる機会の充実と自由に過ごせる場所を増やすことが上位の回答である。また、情報提供についても、自由記述にWEBの情報発信をしてほしいとの意見が出ていた。

○小野部会長

問 15 各種施設やサービスについて、開始時期や対象年齢を注意書きで記載した方が良いと思うが、いかがか。

○平野委員

知らないと回答した人の中に、かつて使えた人と、今でもアクセスできるが知らない人がいると思うのでサービスの対象年齢などの基本情報が分かると思う。

○小野部会長

報告書を読むことでサービスを知る人もいると思うので記載いただきたい。

○事務局

各種施設やサービスの概要を記載する。

○小野部会長

問 14 相談に関して、匿名で相談できるというのが最も多かったことが印象的である。また、公的な機関に相談したい人とインターネット上の方が相談しやすいという人もいるので、どのような場所を若者が欲しているのかは議論できればと思う。

問 8-1 まちづくり活動の参加が市内の方が多かったことが意外であった。活動分野が特定のなのか具体的な傾向を知りたい。

○事務局

市内の活動分野について確認する。

○篠原委員

まちづくりや担い手づくりが課題になっている中で、自分たちもやりたいという人たちにどのように関わってもらえるのかと考えながら報告書を読んだ。問 9-2 に参加していないが、参加する方法がわからない、一緒に参加する仲間がいない、人の輪に入れるか不安という意見が多く、忙しいからだけではないというところに希望を感じた。

また、全体的に人との関わりが少ない傾向であることと、問 5 終業後や休日過ごす場所にインターネット空間が多かったことが印象的である。

○小野部会長

家で過ごしたり、インターネット空間で過ごす人が多く、外に出ていない若者が多いと感じた。少し驚いた印象もあるがいかがか。

○小林委員

周りの友人も外に出ていく人が多いので、意外な結果だと感じている。

○島崎委員

アンケート対象の世代は、子どもの時に「ほっとルーム」はなかったので、認知度が低いのではないかと思った。この世代の人が子育て世代になったときには利用すると思う。

自由記述で知られるべき取組が周知されていないことや、市役所に相談しても寄り添う体制が感じられないなどの意見が出てきていて、声掛けをする窓口、声をかけやすい窓口なども設けた方がいいのではないかと思った。

○小野部会長

若者が意見を出したいときに、すぐに言えるような窓口や手段は現在あるのか。例えばメールアドレスを設けるなど、若者が意見を言いやすいようにする体制も考えていかないとと思った。

○齋藤委員

結婚を機に西東京市に引っ越してきたので、サービスを知る手段がなかった。西東京市で生まれ育った人は学校などで知る機会があると思うが、途中で転入してくる学生などはどこでサービスを知るのかが気になった。自由記述にある情報が周知されていないという意見にもつながると思う。

○小野部会長

ホームページで探せば出てくるが、探しにくいかもしれないので、今後工夫も必要だと思う。

○平野委員

まちづくりに参加している若者が少ないが、問 10 で、費用がかからなければ参加できるや事前申込無しで短時間であれば参加できるという回答があった。

最近ではお祭りをやっていることが多いので、若者がお祭りなどを計画する側に参加してもらえれば、もっと地域ともつながり、そこで意見を表明してもらうことができる。もっと充実していけると良いのではないかと思った。

子ども会議を継続していけると意見表明や社会参加も実感を持ってもらうこともできると思う。若者会議も開催できれば良いと思った。

○小野部会長

自由回答も含めて計画に反映していければと思う。その他に何かご意見等があれば、8月20日までに事務局まで送付いただければと思う。

(3) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量見込みについて

○事務局

資料1に沿って説明

以前、議論があった西東京市内の遊び・学び・居場所の施設、保育・子育て支援の提供、相談・直接支援の提供の分布について、地図に印を付け、各施設の情報をまとめた。

○小野部会長

委員の方から何か質問はあるか。

○小林委員

マップについて、今後、配布する予定はあるのか。

○小野部会長

計画専門部会の議論の参考として作成しているので、配布する予定はないと聞いている。

○小林委員

病児・病後児保育などの利用施設がどこにあるのか周知されていないと思うので、一部公開してもいいのではと思った。

○小野部会長

市のホームページにリスト化されているが、地図の公開も検討していただきたいと思う。

○平野委員

いろいろなサービスがあるのに知られていないので、公開した方が良いと思う。

○小野部会長

西東京市の方でマップの公開を検討していただきたい。
量の見込みについて何か意見はあるか。

○平野委員

学童の人数の超過はずっと課題として挙げられていると思うが、資料を見てもやはり数が多い。この数に対しての市の対策を示せると良いと思った。

○事務局

放課後等健全育成について、今回、学童クラブの整理や、タイムシェアという学校の特別教室等を放課後に借りて学童クラブの利用を分散する取組を実施しており、放課後子供教室を含めて子どもの居場所づくりを進めている。来年度以降はタイムシェア実施校を増やすこと見込んだ数値を取っている。

学童クラブの学年別登録児童数は、全国的に見ると小学校1年生～3年生が8割を占めている。また、多摩26市では3年生までの受け入れが9市、西東京市と同様に4年

生までの受け入れが2市である。6年生まで受け入れているのは15市であるが、低学年を優先して入所させているところも多く、5～6年生が全体に占める割合は3.5%にとどまっている。学童クラブは、低学年のお子さんのニーズが非常に高いことから、放課後の学校の活用も課題とされている中で、西東京市としても学童クラブ以外のサービスの充実を行っていきたいと考えている。

○平野委員

学童クラブに行っている子どもが、4年生や5年生になったら自然と他のところに移行できる体制を作っているところもある。西東京市でももっとシームレスな形を実現できると良いと思う。学校内の学童クラブに行っている子どもが、つながりが切れてしまって、どこで誰と過ごすようになるのかということや、習い事を詰め込まれてしまうことになりかねないと思う。

○小野部会長

本当に学童クラブに行きたい子どもがどこに行くのか、最後の砦として小学5年生になっても必要な人はいると思う。

タイムシェアについては、説明を記載いただきたい。

保育に関して、何か意見はあるか。

○武田委員

量の見込みについて本当にこれで良いのかと思う。利用したいが質の問題によって行っても楽しくないなどの場合があるかもしれない。計画の具体的な実行性についてもう少し言及しても良いと思う。

○小野部会長

同じようなことファミリー・サポート・センターにも言えると思う。

○篠原委員

市民の助け合いで運営しているので、ニーズがあっても担える市民がいないと難しい。今は、お稽古の送迎や親の外出の付き添いのニーズが多い。それぞれ家庭の事情を市民が責任を担うのは良いのかという問題もあるので、数字だけでは実際の状況が分からないと思った。

○小野部会長

それでは、子ども子育て審議会では以上の内容を報告したい。

(4) 基本理念・基本方針・施策体系について

○事務局

資料2に沿って説明

今回の調査では若者の意見を聞いているので、素案にも若者に関する内容を新たに追加した。

第3章の計画の基本理念は、現行計画の「子どもの権利の実現」を若者への取組を追加することから「子どもの権利の保障と若者の自己実現の支援」に変更している。ま

た、基本理念と基本方針の説明についても、こども大綱を踏まえた内容や若者に関する内容を追加している。施策体系についても、子どもだけだった内容に若者を追加している形になる。

○小野部会長

素案については、国・東京都の子育て施策について、文章形式と年表形式が示されたが、どちらが良いか。

○平野委員

文章と表の特性で分かりやすさが違うので、どちらもあっても良いと思う。内容的に国と都の内容を分けた方が分かりやすいと思った。また、具体的に実現した内容を注釈で入れてもいいと思う。注釈の内容も分けて記載できるとわかりやすいと思う。

○齋藤委員

文章で読んだ方が分かりやすいと思ったが、表は時系列のみまとまっていると良いと思う。

○小野部会長

年表は、西暦も併記した方が分かりやすいと思う。時系列のみとし、東京都は色を変えるなど区別するようにしたいと思う。文章と年表の両方を記載することとしたい。

次に、子ども条例とワイワイプランのページについて、子どもにやさしいまちを作る基本構造の注釈について何か意見はあるか。

○平野委員

知らない人もいるので、残した方が良いと思う。

○武田委員

全ての人が理解しているわけではないので、基本に立ち返る意味でも残した方が良いと思う。

○小野部会長

それでは、現行計画のまま残すこととする。

次に、基本理念について何か意見はあるか。

○篠原委員

基本理念「子どもの権利の保障と若者の自己実現の支援」は、子どもと若者の2つに分けているところに違和感がある。権利の保障と自己実現は、子どもにも若者にも係るのではないかと思う。

○事務局

前回の「子どもの権利の実現」という内容を踏まえ、実現した権利に対する保障と今回新たに加わった若者の自己実現を追加している形とした。

○平野委員

こども大綱では、「子ども・若者」としているので、子どもと若者を一緒にした方が
良いと思う。

○小野部会長

自己実現は若者に係ることが多いので、特に違和感はなかったが、その他に意見はあるか。

○菅野委員

事務局案のままで良いと思う。

また、10年前と認識が変わっているので、ジェンダーに関することを説明文に入れる
ことを検討いただきたい。

○中村委員

基本理念については、事務局案のままで問題ないと思った。

○小野部会長

基本理念の表現については、再度検討できればと思う。

○齋藤委員

基本方針 1 に20代～30代の若者とあるが、若者の年齢の定義を確認したい。

○事務局

若者に対する年齢の定義を設けないことがこども大綱にある。次期計画の対象者に記載する
内容と整合性を図った記載に修正する。

○小野部会長

その他に何かご意見等があれば、8月20日までに事務局まで送付いただければと思う。
子ども子育て審議会への報告資料の確認については、部会長に一任いただきたい。

○委員

異議なし

(5) 計画の名称について

○事務局

資料3に沿って説明

○小野部会長

委員の方から何か意見はあるか。

○島崎委員

子どもがいない人も若者も子育てに関わって、地域として安心して暮らせる環境づくり
をしていきたいという思いから、子育て、子育てという言葉を入れなくても良いと思

った。

○平野委員

「子育て」という言葉が良いと思ったが、名称が少し長く、親しみが湧きにくいと思ったので、「子ども・若者ワイワイプラン」が良いと思う。

○武田委員

「子ども・若者ワイワイプラン」が単純で良いと思う。

○篠原委員

「子ども・若者ワイワイプラン」が良いと思う。

○小林委員

長すぎるという気もしない。3つのワードであれば覚えてもらえると思うので「子育て・子育て・若者ワイワイプラン」で良いと思う。

○菅野委員

「子育て・子育て・若者ワイワイプラン」が良いと思う。

○中村委員

基本方針で子ども・若者とうたっているので、計画名称も同じく「子ども・若者ワイワイプラン」が良いと思う。

○齋藤委員

子育てが入った方が赤ちゃんも含まれて良いと思っていたが、子ども・若者でも赤ちゃんから若者まで対応していることが分かるので、「子ども・若者ワイワイプラン」で良いと思う。

○小野部会長

前回の議論では、「子育て」という言葉が西東京市らしいと思っていたが、計画専門部会としては本日の議論で人数が多かった「西東京市子ども・若者ワイワイプラン」を子ども子育て審議会に諮りたい。また、審議会でもご意見を伺えればと思う。

○事務局

前回の議論からも現行計画の「子育て・子育て」を重要視されていると認識していたので、「子ども・若者ワイワイプラン」の案と、「子育て・子育て・若者ワイワイプラン」を2つ目の案として審議会にご提案できればと思う。

2 その他

○事務局

今回は、子ども子育て審議会が8月26日（月）に予定されている。計画専門部会については、10月上旬を予定している。

○小野部会長

それでは、第4回子ども子育て審議会計画専門部会を閉会する。

閉会